

## 戦時下の高校生活

昭和13年に「国家総動員法」が発令され、校内では軍事教練が強化された。また、勤労働員により、本業である学業は殆ど行われることがなくなっていった。昭和16年には、高田商工学徒報国団が組織された。食糧増産のため、校庭には野菜などが栽培された。従来の運動部は鍛錬部と、名称が変更されただけでなく、内容自体も競技的要素から鍛錬的なものへと変わった。昭和17年には硬式野球、昭和18年には籠球、庭球も中止され、武道・戦闘能力の増加に役に立つような国防的競技に重点が置かれることとなった。県外修学旅行は許されず、佐渡旅行が精一杯で、鍛錬を目的とした頑張り行軍が行われるようになった。19年には生徒達は防空服装で登校した。体操や教練が中心で英語は軽視され、やがて英語自体が全廃になった。さらに、商業科の存在が許されなくなり、「新潟県高田工業学校」に改名されてしまう。商業科は機械科に切り替えられてしまったのだった。

## 新生 高商誕生

終戦と共に復活した商業科だったが、校庭は開墾され、工場となっていた学校は学習できるような状態ではなかった。だが、学校・同窓生たちが商工学校復元運動を起こし、続いて商・工それぞれの独立運動を展開して、昭和21年、商業科は復活した。その後、昭和22年に工業科が移転し、昭和23年から高田商業高校が正式に発足する。昭和21年には戦前の部活動の主なものは復活し、昭和26年には生徒会組織が整備され、初代生徒会長が選ばれている。妙高タイムスもこの頃発行されていたようで、第9号には生徒会長の挨拶が紹介されている。

さて、学校は戦後長く週6日制で、現在は5日制となっているが、昭和25・26年に約2年間ではあるが、5日制がとられたという。また、昭和25年4月には、初めて女子学生が入学してきた。その数は7名で、その後、昭和26年度は13名、27年度は18名と次第に増えていった。トイレには苦勞したらしい。

昭和26年、以前から、商業実践活動の一環として、生徒によって購買・銀行を運営していたものを吸収し、全国的にも珍しかった、経営を全て生徒にゆだねた六華商事株式会社を創立した。RIKKAの前身である。

入学希望者の増加に伴い、校舎も増築されていった。そうして、新校舎の竣工式もかね、昭和30年10月29日に、創立40周年記念式典が行われた。 (金子・長澤)